

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2974300093 | | |
| 法人名 | 株式会社 エース | | |
| 事業所名 | グループホーム太陽十津川 折立の郷 | | |
| 所在地 | 奈良県吉野郡十津川村折立364-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 23年 6月 5日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-nara.jp/kai_gosi_p/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 Nネット | | |
| 所在地 | 奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3F | | |
| 訪問調査日 | 平成 23年 6月 23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| 敷地の奥に、多目的に使える建物を建設中であり、アットホームな雰囲気を大切にしています。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 医療機関や商店など少ない過疎の地でデイサービス、ショートステイ、若年の方の受け入れなど認知症の方や家族の要望に出来るだけ対応すべく頑張っているグループホームである。職員は否定しない介護を心がけ、よくミーティングを行ない利用者の情報共有に努めている。利用者の表情は穏やかで のんびり過されている。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 月1回及びその都度のミーティングが行われており、施設長等の指示もあり、理念は共有されている。 | 定期的な職員会議や、随時に行なわれるミーティング時に経営理念に沿ったケアの考え方や実践方法が施設長から話されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 村や大字折立地域の行事に参加、特に小・中学校行事に招待を受け、相互の交流が継続しつつある。 | 花見や盆踊り、お宮さんの掃除など地域行事や自治会行事に参加している。小、中学校の運動会や文化祭に参加したり、中学校の社会実習やヘルパー実習を受け入れるなど交流がある。 | 地域の行事への参加はよくされているが、事業所の文化祭への作品の出展や介護教室の開催、介護相談室を開くなど、地域住民に参加してもらえる働きかけを期待する。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 併設事業として、訪問介護及びデイサービス事業、介護タクシー事業を実施する中で、相互に研修しあいながら従事する中で活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年に一度の開催状況であるが、前は入所者様も参加して頂き、参加者の共通意識が出来つつある。話し合いの中で出た、2Fからの避難経路及びスプリンクラーの設置を行う。 | 昨年6月に運営推進会議が開催され、会議の目的や現状報告、生活の様子の見学、避難訓練の実施、反省会が行なわれている。参加者からの助言に対しては、2階の避難通路を設けるなど素早い対応がなされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 担当者もその都度訪問して下さり、特に生保の利用者の入院等につきましても密に連携しつつある。 | 村内唯一のグループホームでもあり、区分変更、調査、申請など担当者とは頻りに交流している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束、虐待等の研修を通して基本は理解しているが、玄関、夜間の施錠については試行中。 | 年間研修計画にくみこまれており、施設長、管理者が常時事業所にいることから、その都度ミーティングをし研修をしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の研修をすることで職員全員意識している。(現在の課題として入浴の仕方について検討している。) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 当グループホームには制度利用されている方はおられません。基本的な理念は、当施設のケアマネが社会福祉士として後見人をしており、ミーティングの中で職員に説明している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結時においては、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。又、出てきた課題については誠意をもって対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営会議において利用者や家族等の意見、要望等、日々の声掛けや会話の中で、聞きとる努力は職員全員が心がけている。 | 施設長、管理者、職員は出来る限り利用者、家族の要望を受け入れる姿勢で臨んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃のミーティング及び研修の中で、職員の意見を聞き運営に反映させている。 | 利用者の個別ケアの方法や建築中の建物の間取りなど職員の意見を反映させ、実践する体制が取られている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者として職員個々の勤務状況はよく把握している。研修や資格取得の配慮をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修等は適宜声かけしている。ケアマネや介護福祉士受験、県内研修に参加している。村内研修または介護福祉士やケアマネを受験しようとする職員も数名でてきている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 奈良の営業所との交流はしてきたし、通所介護・支援事業所の新設等、これからも引き続き交流する機会が増えていくと思われる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 即、理解出来ないことに対しても穏やかに対応する中で、十分に話しを聞いて本人の安心を確保し、納得のいく話し方で良い関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期面接において、家族の主旨を広く聴くことで、関係を大切にするように心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期見極めにおいて実施し、そこで出てくる課題に即対応するため職員間の話し合いを密にしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の中で「アットホーム」な雰囲気大切にすることで、出来る場面の手伝いをお願いしたり、気持ちのこもった会話を心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が気がかりなこと等を職員に気軽に伝えて頂けるよう、面会時等に声掛けをし、定期連絡で行事参加の写真や手紙を添えて行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行事に参加されたり、散歩時や通院時の待合室等で、以前からの知り合いに声をかけられる事もあり、楽しそうに会話されている。 | 地域からの利用者が7人おられ、散歩中や村内行事の参加時、温泉に出かけた時など声をかけられることがある。家族の協力のもと帰宅、墓参、眼科受診などされる方がいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症という状態像の中でも、寄り添える仲間作りは大切であり、日々の日課の中で心がけている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 以前より、長期入院時において退院後の受け入れや、相談についても積極的に表明している。本年終末ケアを実施した利用者様家族との関係が続いています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は常に尊厳、誇り、プライバシーを損ねない言葉かけや、理解出来ない場合も拒否しない介護に努めている。 | 見当識障害や暴言を発する利用者もおられるなか、職員は常に拒否しないケアを心がけ辛抱強く対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 適宜、ファイルは見るようにしている。回想的に御本人から出た情報を全員で共有するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の日記を気づいた時に少しずつ記入しており、全員が必要な時見やすくなっている。課題に対しては即ミーティングしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的な会議と日常の職員同士の日々の会話の中で検討して、現状に即した計画になるよう努めている。 | フェイスシートや職員の意見を参考に介護計画書を作成し、家族に説明、同意の署名捺印をもらっているが、事業所まかせの家族も多い。入浴、排便、外出などの月別チェック表を作成し、利用者の状態把握がよくされている。個別記録表を、記入し易く、解りやすい表に変更されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員間の情報の共有は出来ていると思うが、日々様々な気づきの記入方法を改良し試行中です。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | デイサービスやショートステイ、病院送迎、介護付高齢者用住宅の建設等、幅広いニーズに対応できる体制作りに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 一昨年の利用者の徘徊による事故死の経緯もあり、本人の特性を知って頂きながら、地域にとけ込むような心がけている。畑仕事や森林公園での花見、温泉入浴や足湯も行っています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 救急搬送にも時間がかかる地域であり、診療所や開業医との関係は強く、時には医師による往診ももらえる環境にある。また家族による通院又は意見も大切にしている。 | 村内の診療所は派遣医師のため定期的な往診やかかりつけ医を持つことは望めないが、緊急時には往診が頼める。ホームの看護師が主に利用者の受診基準を定め、体調の変化には細心の注意を払っている。受診記録は利用請求書と共に家族へ送付し報告されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1日、看護師が利用者1人ひとりと密に関わりながら相談及びケアをしている。そのことによる情報の共有化を大切にし手当、治療、受診等適切に対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 一つ一つの事例を通じて、このことは大切にできています。特に、生活保護受給者の方の入院等の判断は難しく、役場の担当者と連携し対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取り指針は出来ており実施している。実際に終末ケアのケースがあり、医療、家族、行政及び本人との話し合いや連携は大切にしている。重度化については、自立に向けた支援をしリハビリ体操等取り入れているが、加齢による重度化に対応しきれないのが実情である。 | 医師の少ない過疎地で、家族の要望に応じて、看取り支援をされている。指針を定め、家族、医師、看護師、事業所と話し合いを持ち、同意書も作成している。ターミナル期にはその都度職員ミーティングを重ねながら支援をし、記録を取っている。今年はお一人を看取られた。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時における連絡体制が確立しており、職員が嘸下事故に対応した経験もある。AED設置に伴い講習も受けている。これからも定期的に研修や訓練を実施していく。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練をしている。職員会議でも議題にあがっていて、職員の日々の自覚と訓練と地域の協力体制を心がけていく。 | 消防署職員を交えて避難訓練を行なっている。2階に避難用出口を作ったり、自動点灯の照明を増やすなど、指摘には素早い対応がとられ、消防署の分団がすぐ近くにあるため協力体制も取れている。スプリンクラーは設置済みである。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ミーティングを通して、尊重とプライバシーについて研修を重ねている。本人の厳しい言葉にも余裕をもった声かけで対応している。 | 気付いた時はすぐにミーティングを行い研修を重ねている。入室時の声かけやノックは定着しており、入浴は同性介助している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入浴、排泄、食事、外出、カラオケ、睡眠、作業手伝い、ラジオ体操等、日常の声かけ、会話の中のできるかぎり希望を聞く会話に心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員体制の関係から出来ないこともあるが、表現された思いに対しては、沿って行けるよう心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ヘルパー2人が理美容師であり、カット、散髪等のケアをしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一回一回の食事の会話の中で好みや食事への思いを確認している。食材の下準備、皮むき、すじ取り等参加して頂いている。片付けも下膳はしている。洗い物や調理は介護員がしている。 | 準備や片付けの手伝える利用者は3人位おられる。近くに商店がないので多量に買い置きし、3台の冷蔵庫にある物や近所からの差し入れ物などを考慮して献立を考えている。食事前には皆で大きな声を出して口腔体操を実施している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事量、水分量を記録し、1人ひとりにあつた支援に心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、介助や声かけで実施しています。朝、昼食後はブクブクうがいをし、夕食後は歯磨きでのケアや義歯洗浄剤を使用しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 各個室にもトイレがあり、自力で行かれる方が多いが、トイレ誘導の必要な時も、さり気なく介助している。オムツの使用を必ずしも否定していない。むしろ、オムツを使ってでも外出支援できるよう支援している。 | オムツ使用2名、リハビリパンツ使用3名の方がおられる。居室にトイレが設置されており、意思表示の出来る方も多い。チェック表により排便の状態を把握し、必要時には薬を使うなどしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便記録も注意しながら、地産地消の野菜を十分取り入れた食事内容にし、運動量など工夫しているが、それでもなおかつ必要に応じて、処方された薬を使う事もあります。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴を拒否する方が一人おられたが、数名の職員の工夫と忍耐で現在のんびり入浴されている。現在も続いている。 | 概ね週2～3回だが時間帯は特に定めていない。職員体制や天気具合を見て、温泉や足湯に出かけている。利用者にはとても好評である。チェック表を付け入浴状態を把握している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 屋間ソファで気持ち良くお休み、深夜起きてこられる方の場合など、ちょっとした会話やおやつを状況に応じて工夫して対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書が綴られており、薬も工夫して保管しており、それぞれ変化した場合、日々の服薬記録に基づいて連絡を密にし相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事前の口体操のリーダーや「コロコロ」での掃除、草引きや畑の手入れ、洗濯物干しや取り込み、たたみ、野菜の皮むき、すじ取り、朝起きて窓のカーテン開け、モップを使って床掃除等をすすんでして頂けるよう心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的には近隣の橋までの散歩が主ですが、車での外出など四季折々の花見や行事参加、学校行事や村や字の行事参加等、企画しながら工夫している。 | 日常的な散歩や村の行事、花見、学校行事の参加などのほかに、今年はチェック表を作成し、個々の外出状態を把握している。温泉に行ったり、全員で出かけるなど利用者が喜ばれることを増やす努力をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | あまりお金をもつ機会がない。今後、地域や中学校のバザーなどでお金を使う体験をすることを考えていきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 日記のように書いている方はおられるが、今年の課題として絵手紙や電話など工夫していきたい。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 環境は刺激が少ないように工夫されている。季節感も多く取り入れているし、会話にも工夫している。 | 玄関すぐ横にオープンな事務所があり、それに続く長い廊下は歩行リハビリに使われている。居間、食堂、台所は一般家庭と変わりなく、利用者は食後の時間をのんびりくつろいでおられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有のホールの中で、こたつやソファ、テーブル等、それぞれ自由に利用して頂ける環境作りになっている。利用者同士だけでなく、職員との会話も弾んでいます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 面会に来られた時など各自で工夫しているが、当施設の敷地面積を増加させることも考慮しながら計画を進めている。 | 各居室にはトイレと洗面台が設置されており、ベッドを置いたり、畳みを敷いて和室にするなど、利用者にあわせた部屋作りがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自分から「したいこと」「できること」は、して頂いている。TVやラジカセを室内に設置したり楽器を持って来られたり、それぞれの趣味や思いを大切に生活を送れるように工夫している。 | | |